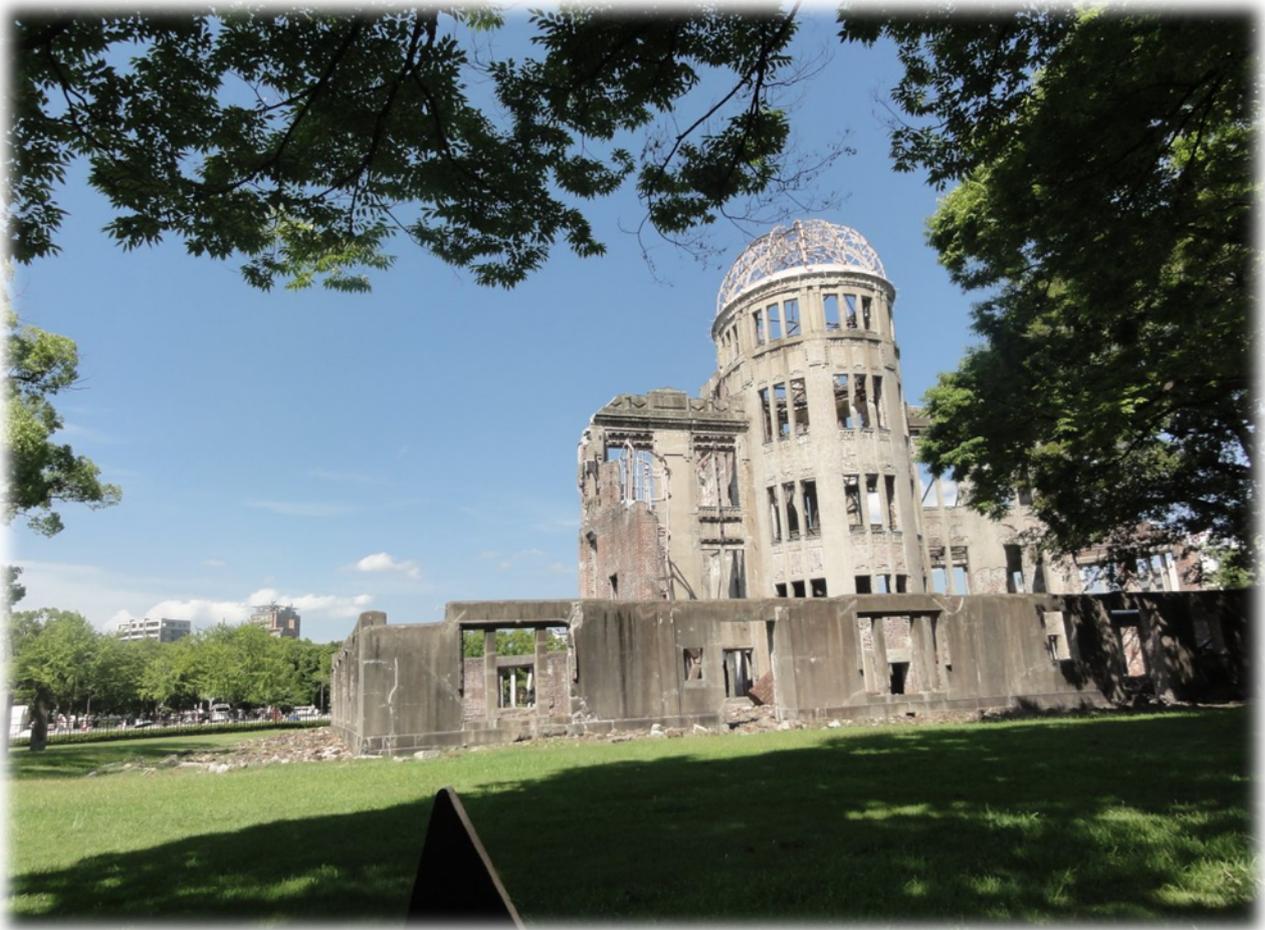
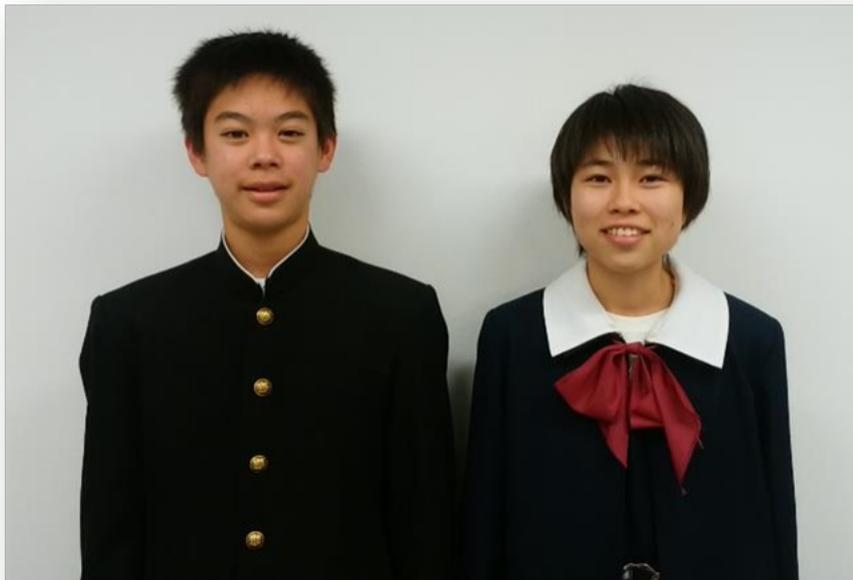


私たちの 平和宣言



私たちの平和宣言

みなさんは戦争や原爆についてどう思っていますか。私たちが広島派遣に行く前は、戦争は嫌だとか、原爆は怖いという漠然とした考えを持っていました。しかし、広島派遣の3日間で、平和記念資料館を見学したり実際に被爆した方のお話を聴いたりして、言葉では言い表せないような痛みや苦しみを感じとることができました。日々の暮らしの中で、学校に通えること、授業を受けられること、友達と遊べること、このどれもが「幸せ」だと改めて感じました。私たちは、平和な世界で暮らせることに感謝しながら生きていきたいと思います。そして、平和な世の中を持続させるために、微力だとは思いますが、小さな力も合わせれば大きな力となることを信じて、自分たちができることをやっていきたいと思います。この気持ちと広島派遣に行って見たもの、感じたことを全校生徒、周りの人達に伝えていきます。



我孫子中学校 中川 孔明、西村 百夏

私たちの平和宣言

私たちは、広島に行ってきたくさんのことを学びました。今まで、戦争は自分たちにはあまり関係ない出来事だと思っていました。しかし、「戦争の種はどこにでもある」ということを教えていただきました。また、原子爆弾の投下は、当たり前前の生活、日常の中にありました。そして、その一発の爆弾で、当たり前前の生活、日常、全てを奪ってしまったことを知りました。当たり前前の生活を送れることのありがたさを強く感じました。また、戦争、核兵器は絶対になくすべきだということを、再確認しました。そのためには、より多くの人が平和について、戦争について、核兵器について、真剣に考えることが必要です。私たちは、1人でも多くの人、平和について考えるきっかけとなれるよう、広島で学んだことを伝え続けていくことを誓います。



湖北中学校 市川 凌、高須 万悠香

私たちの平和宣言

私達は、この広島派遣を通し、戦争ほど人の心と体を傷つけるものはない、と思いました。国のトップが始めた戦争の犠牲の多くは、何の罪もない、何も知らない、私達のような国民です。戦いを望まないたくさんの人々が武力によって亡くなりました。72年前の悲劇を風化させるのではなく、私達若い世代が戦争についてよく知り、深く考え、平和な世界をつくるため、守るために、更に若い世代へと歴史を伝えなければいけないと思いました。私達は、この2泊3日の派遣を終えて、特に印象に残っていることがあります。それは、広島平和記念資料館などを見学し、最も事実に近いことを知れたことです。私は広島に行く前の事前説明会で市長に、「実際に広島に行き、私がたくさんの方々にリレー講座などを通じて私達若い世代に伝承していきたい」と言いました。そのためには、正しい事実を学び、それを踏まえた自分の意見をしっかりと持つことがとても大切だと、私は思います。しかし、実際に被爆者の方の話の話を聞くと、当時はまだ幼かったから正しい記憶はないが、色々なことを見たりして思い出しながら話をしていると言っていました。それは、私達も同じだと思います。実際に戦争に関わったわけでもないし、被爆者でもないのに、その場がどんな様子だったかは想像するしかありません。しかし、その想像することが、これからたくさんの人に伝えていくには必要だし、被爆者の思いは自分たちが伝承していくことは可能です。だから、今自分にできることを考え、実行していくことを誓います。



布佐中学校 服部 琉佳、柵木 愛

私たちの平和宣言

私達は今回広島へ行き、痛ましい展示物を見て、改めて原爆の恐ろしさを痛感しました。しかし、最も印象に残ったのは、終戦直後、屋外の瓦礫の脇で授業を受ける子ども達の写真や爆心地のすぐ傍にありながら翌春芽吹いたアオギリの木、焼け野原で自宅や線路を周りの人達と励まし協力し合いながら直している人達の写真でした。私達はこれから、どんな状況下にあろうとも、前向きに生きようとする生命の逞しさや人と協力して生きていくことの大切さを学びました。裏を返せば、お互いを認め、尊重し協力する心を大切にしていけば、平和な世界へと近づいていくのではないかと思いました。些細なことではありますが、まず私達も身近な人達とこのような関係を築いていくことから始めたいです。また、次世代へ戦争の悲惨さを伝え、平和について真摯に考えてもらえるよう、リレー講座のような場で、私達が広島で見てきたこと、感じたことを伝えていきたいです。



湖北台中学校 桐山 悟至、古川 希

私たちの平和宣言

私達が広島への派遣で、まず印象に残っているのは、広島平和記念資料館を見学したことです。私は、今まで原爆の被害を知らなかったため、資料館にある火傷をした人の写真や一瞬で焼け野原になってしまった広島の様子を見て、原爆の悲惨さや恐ろしさを実感しました。次に印象に残っているのは広島平和記念式典への参列です。式典では、広島市長をはじめとするたくさんのひとの方のお話を聴き、改めて平和の尊さを感じました。そして、この式典にたくさんの方が参列しているのを見て、人々の平和に対する気持ちの強さを感じました。恒久平和を実現させるためには、たくさんの方で協力することが大切だと思います。しかし、まだ世界を変えられるだけの人数は集まっていないと思います。だから、私達が持つ平和への思いを周りの人に伝えて、平和を願う仲間を増やしていくことが、今できることだと思います。私達、久寺家中学校は、平和の尊さをたくさんの方に伝えて、共に平和を願う仲間を増やしていくことを誓います。



久寺家中学校 吉田 直輝、中島 未菜

私たちの平和宣言

これまでの発表でも話したように、私達は、被爆地「広島」を訪ねてきました。「袋町小学校平和記念資料館」や「本川小学校平和記念資料館」では、家族や友人に無事であってほしいと願いながら小学校で看護され、心も体も苦しんだ人々の思いを知りました。「平和記念資料館」、「平和記念式典」では、これ以上同じような思いを、そして大切な人を失って悲しむことをなくしたいという遺族の方々の思いや原爆被爆者のつらい苦悩、二度と繰り返してはならないという強く伝わってきました。私達中学生が被爆者の方々と関わることはあまりできません。しかし、周りの仲間が苦しそうな時に手を差し伸べ、恩送りをし、恩送りの輪が広がっていけばいつか被爆者の方や遺族の方にも繋がるかもしれない。だから私達は周りの困っている人、苦しんでいる人に手を差し伸べていきたいと思います。「優しくすること」が平和への第一歩だと思います。



白山中学校 瀬戸 大晴、豊田 香乃

